

2020年4月24日(金)
佐久市民新聞

保育所や児童館職員にー

白田地区活性化共同企業体 市へマスク1750枚



佐久市の「生涯活躍のまち構想」に基づき、佐久市白田の下越地区でサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）の整備を進めている「佐久市白田地区活性化共同企業体」が、佐久市へ使い捨てマスク1750枚を寄付した。

同企業体はサ高住の運営などを手がける「みんなのまちづくり」（伊藤洋平社長／本社・東京）と、佐久市白田

の堀内組（堀内文雄社長）で構成。下越地区の市営住宅を改修し、「ホシノマチ団地」と名付けた移住者が生活するサ高住の整備、運営を行って、白田地区の活性化を目指している。

「みんなのまちづくり」の伊藤社長は、「新型コロナウイルスで社会が混乱する中、佐久市のために何かしたいと考えていた。微力だが、感染防止に向けて協力ができれば」としている。

寄付されたマスクは、子どもと接する機会が多い市内の公立保育所や児童館の職員が使用する分として配布する考えだ。

1箱50枚入りのマスクが35箱届けられた